

市町村名		本部町					
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	山里山百合増殖普及事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-1-(1)	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成25~27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自然、歴史、伝統、文化などの固有の特性を生かした個性豊かな地域づくり Ⅲ-1-(1)	
事業内容	在来種の山百合(鉄砲百合)を観光資源として活用した地域活性化を図るため、本部町の山里地域に多く自生している山百合の補植を行い、同地域を山百合で溢れる地域にする。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	(a) 当初予算額	68,570	-	43,000	-		
	(b) 予算現額	68,570	-	27,156	-		
	(c) 増減額(b-a)	0	-	▲ 15,844	-		
	(d) 繰越額	0	13,480	0	16,165		
	A. 計(b+d)	68,570	13,480	27,156	16,165		
	B. 執行済額	55,089	4,740	10,990	16,162		
	うち交付金充当額	44,071	3,792	8,792	12,929		
	次年度繰越額	13,480	0	16,165	0		
	執行率(%) (B/A)	80.3%	35.2%	40.5%	100.0%		
予算の状況の説明	増殖した百合の植付を予定していたが、生育状況から次年度行う方が適性と考え18,772千円減額し、また百合を植え付ける園地・圃場が沖縄海岸国定公園内に位置するため、景観に配慮した工法へ変更したため5,059千円を増額する補正を7月に行った。また、他事業が必要が生じたため、入札残が生じた当該事業より2,131千円を10月変更し予算を組み替えた。 排水の流末処理方法の検討及び流末地に隣接する地権者との調整に時間を要したことから16,165千円を27年度に繰越した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	自生山百合の補植30,000株	目標	(補植20,000株)	(補植30,000株)	()	()	
		実績	補植20,000株	補植30,000株			
	山里地区でのイベント(山百合祭など)の開催	目標	(イベント開催1回)	(イベント開催)	()	()	
実績		イベント開催1回	イベント開催				
達成状況説明	山百合30,000株を地元のNPO法人に委託し、7月から3月にかけて山里地域に補植した。 また補植を行った山里地区において、国定公園カルスト山ゆり祭り実行委員会主催による国定公園カルスト山ゆり祭りを5月3日~4日の2日間にわたって開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	イベントの実施による観客数:300人	目標	(-)	(300人)	(300人)	()	()
		実績		310人	1,000人		
	【3年間の補植目標に対するH26年度までに補植する割合】 山百合の補植率:41.6%	目標	(-)	(-)	(41.6%)	()	()
		実績		-	41.6%		
進捗状況説明	イベントについては、第2回カルスト山百合祭りを開催し、目標を上回る1,000人の観客が来場した。 イベントの実施により、山里地区を訪れる入域者数の増に貢献できた。 百合の補植については、平成27年度までに12万本の補植を目標としており、平成25年度に2万本、平成26年度に3万本を補植したことで、平成26年度目標である植付率41.6%を達成できた。						

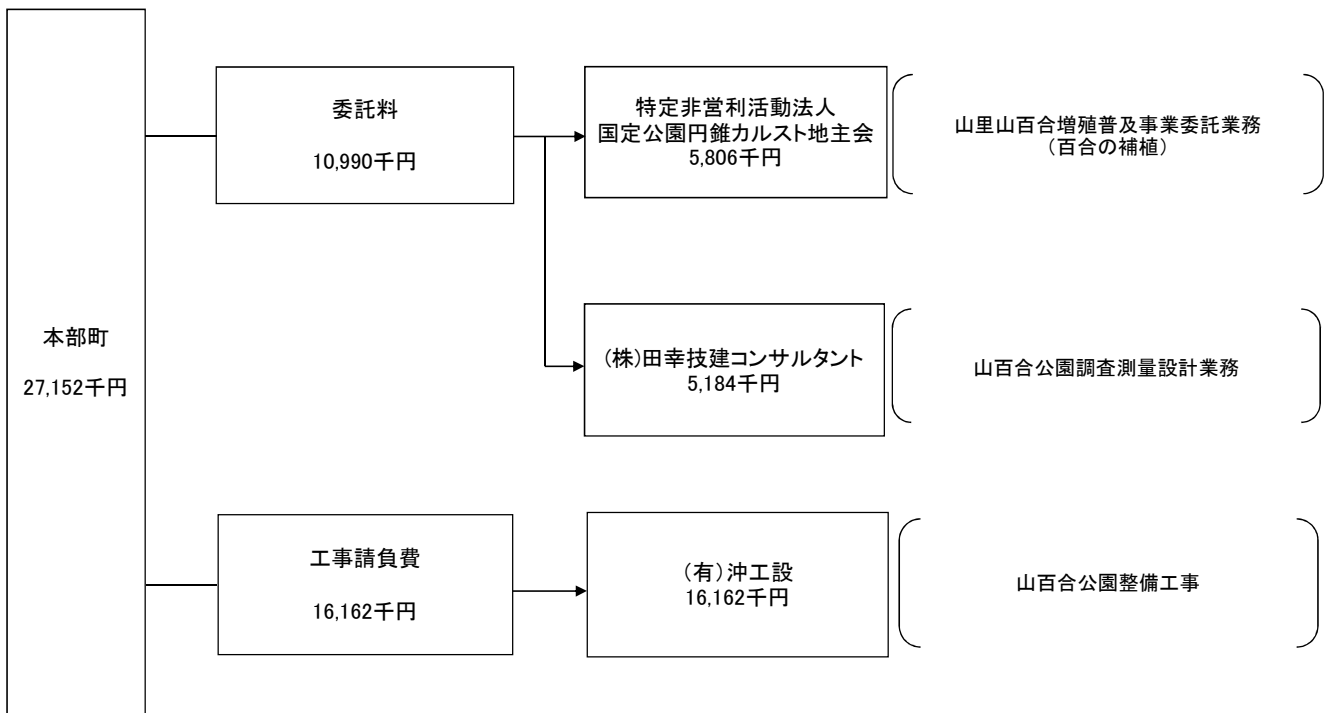
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本部町山里地域は、特異な地形景観から平成18年に沖縄海岸国定公園に指定され、徐々に入域者数が増加してきた。しかし、地形以外の観光資源に乏しいことから、新たな観光資源として地元にある百合を活用した地域活性化に取り組むこととした。</p> <p>これまで山里地域に百合を補植してきたが、補植した百合について無断採取対策や、地域の清掃活動時に雑草と共に除草することがないように注意を払う必要がある。</p> <p>また、今年度のイベントについては1000名以上の集客があったことから、会場周辺の受入環境を整える必要がある。</p>	<p>補植した百合の維持管理について、補植範囲や百合の発芽時期について地域住民との情報共有を行い、除草時に誤って百合まで伐採しないよう調整を行っていく。</p> <p>また、本取組を持続的なものとするため、維持管理費に充てるための収益の確保について検討していく。</p>

今後の取り組み方針

引続き百合をメインとしたイベントを開催し、イベントの告知については新聞社などマスコミを活用した告知活動を展開し、来場者の増加に向けて取り組んでいく。同時に増加した来場者を受け入れるため、イベント会場へのトイレ設置や駐車場整備など受入環境整備を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,152	27,152	21,721	5,431	0



資金の流れ、費目・点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・点検項目	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託料(百合の補植)については、地方自治法第167条の2第1項第2号の規定により随意契約としたが、契約者以外にも見積書を徴し適切な額での契約に努めた。</p> <p>○委託料(調査測量設計)、工事請負費については、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模については不用額が3千円あり、適正な規模であった。</p> <p>○費目・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

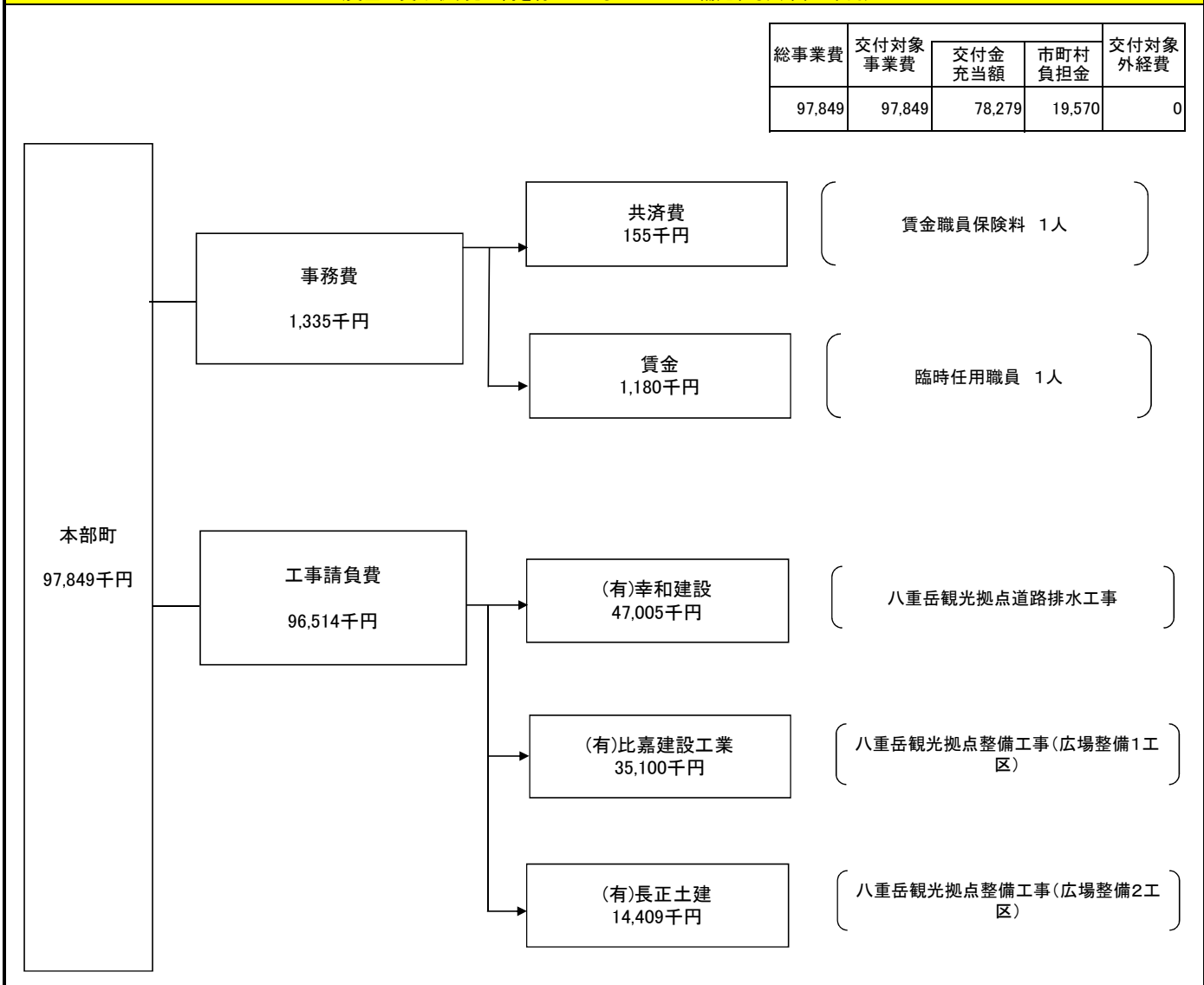
市町村名		本部町				
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-①	八重岳観光拠点整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容	日本一早い桜祭りとして有名な八重岳には毎年多くの観光客が訪れるが、今後も本部町の主要観光拠点としてアピールしていくためには、観光客に配慮した拠点整備が必要である。本事業において排水路整備を行うことは、法面崩壊と桜(緋寒桜)の倒木防止になり観光資源の保全と観光客の安全確保が図られる。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度
		(a) 当初予算額	10,000	95,224	-	
	(b) 予算現額	10,000	98,172	-		
	(c) 増減額(b-a)	0	2,948	-		
	(d) 繰越額	-	0	49,814		
	A. 計(b+d)	10,000	98,172	49,814		
	B. 執行済額	9,660	48,340	49,509		
	うち交付金充当額	7,728	38,672	39,607		
	次年度繰越額	0	49,814	0		
	執行率(%) (B/A)	96.6%	49.2%	99.4%		
予算の状況の説明	八重岳は、桜まつりを開催する主要な観光拠点であることから、次年度予定範囲の広場整備を前倒しで実施する予定で37,643千円増額し、また用地交渉の理由で排水路工事予定箇所の変更のため34,695千円減額するため9月変更した。広場整備における整備地域の規制(森林法・自然保護法等)確認や八重岳桜祭りイベントにおける関係者協議において、施工時期・施工仮設等の調整に不測の日数を要したため49,814千円を27年度に繰越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況				
		26年度	27年度	28年度	29年度	
	排水工事の実施 L= 3,331m	目標	(排水工事の実施 L=3,331m)	()	()	()
		実績	排水工事の実施 L=2,950m			
	伐採工の実施 A=37,675㎡	目標	(伐採工の実施 A=37,675㎡)	()	()	()
		実績	伐採工の実施 A=22,816㎡			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 排水路整備については、等断面側溝と変断面側溝との分岐点において新設側溝の検討が必要となったため変断面側溝の数量を本年度整備予定数量から減とした。等断面側溝整備箇所において、地権者の合意形成が図られた事で頂上付近から下流間(2,950m)の整備が出来た。 広場整備については、整備予定広場箇所の整備コストが増加する事が予想されたため面積を減にし、造成コストが安価な広場の伐採及び剪定を行った。結果、約2haの新たな観光拠点広場としての活用が可能となった。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		目標	()	(排水工事の完了 L=3,331m)	()	()
	実績		排水工事の完了 L=2,950m			
	目標	()	(伐採工の完了 A=37,675㎡)	()	()	()
	実績		伐採工の完了 A=22,816㎡			
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 当初排水路の目標整備延長L=3,331mは、頂上から下流への等断面石張り側溝(300×300)L=3,219mと変断面石張り側溝(112m)の整備予定であったが変断面側溝付近における新設側溝の検討が必要となっことでL=112を本年度の整備数量から減した。また、等断面側溝の整備においても現場状況の変動に伴い設計延長と実施延長で差が生じた事で減となった。今後は、下流の親水性護岸整備等を行うため用地買収の早期完了に努めたい。 広場整備については、当初予定していた箇所の起伏が大きく造成コストに多額の費用が掛ることが予想されたため整備面積を縮小した。今後の広場整備については、環境整備(東屋・ベンチ・久米桜植栽等)を行うことで事業の早期完了に努めたい。 				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・親水性を確保するために必要な施設整備について、ため池等の検討を行ったが事業コストが高くなることが予想されたため親水護岸内での貯留を検討した。 ・また、排水路整備は下流から行うのが普通であるものの、事業進捗を速める必要性から用地買収筆数の少ない(3筆)上流排水路から整備着手した。 ・親水性護岸整備を行うに当たり、関係地権者の合意形成を図ると共に用地交渉及び契約等の早期完了が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な工事コストの縮減に考慮しつつ自然景観を活用した新たな観光拠点整備を推進する。

今後の取り組み方針

・八重岳桜祭りには毎年多くの観光客及び来客者が訪れているものの多くの来客者が祭り会場に集中するため交通混雑が激しく安心・安全の確保が厳しい状況である。
 その為、本施設(広場・親水性護岸等)を整備することで、八重岳地域に点在する観光拠点施設(八重岳桜祭り会場・八重岳頂上展望広場)との連携・連動による交通整理が行われ交通混雑の解消・多目的な観光拠点の構築が図られる。
 ・H27年度からH28年度に渡って広場整備等においては環境整備(東屋・ベンチ・久米桜植栽等)を行うとともに、下流部の親水性護岸の整備や休憩施設等の整備を行うことで新たな観光拠点として早期活用を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、用途の流し、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額が事業費の1%以内のため適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費用・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	もとぶピージャー産地確立推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 III-1-(6)	
事業内容	沖縄県内で消費されている山羊肉の約8割が輸入山羊肉であるという事実から、本事業により県内産の山羊を改良増殖することで地産地消を推進する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	39,827	22,127	-		
		(b)予算現額	39,827	22,127	-		
		(c)増減額(b-a)	0	0	-		
		(d)繰越額	-	-	19,914		
		A.計(b+d)	39,827	22,127	19,914		
		B.執行済額	39,359	0	18,818		
		うち交付金充当額	31,487	0	15,054		
		次年度繰越額	0	19,914	0		
		執行率(%) (B/A)	98.8%	0.0%	94.5%		
予算の状況の説明	敷地について当初予定していた土地が確保できず、新たに確保した土地は造成が必要で設計等に変更が生じたため年度内の完了が困難になり、19,914千円を27年度に繰越した。また、繰越時に不用額が2,213千円生じているが入札に伴う事業費の減のため事業主体の補助金申請が低くなったものによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	山羊舎整備:1棟	目標	(2棟)	(1棟)	()	()	
		実績	2棟	1棟			
	ホイルローダー購入:1台	目標	()	(1台)	()	()	
		実績		1台			
	飼料カッター購入:1台	目標	()	(1台)	()	()	
実績			1台				
達成状況説明	用地の確保に不要の日数を生じ繰越となったが、事業計画に基づき山羊舎(建築面積173㎡)及び機械の整備を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	本部町内飼養頭数 640頭	目標	()	(450頭)	(640頭)	()	()
		実績		537頭	636頭		
	対象施設出荷頭数 40頭	目標	()	()	(40頭)	()	()
		実績			47頭		
	進捗状況説明	町内での山羊飼養頭数が増加しているが、目標頭数まで及ばなかった。山羊肉の需要と認知度がここ数年高まってきたことから飼養頭数が今後増加していくことが見込まれる。整備した山羊舎からの出荷実績は目標達成することができた。					

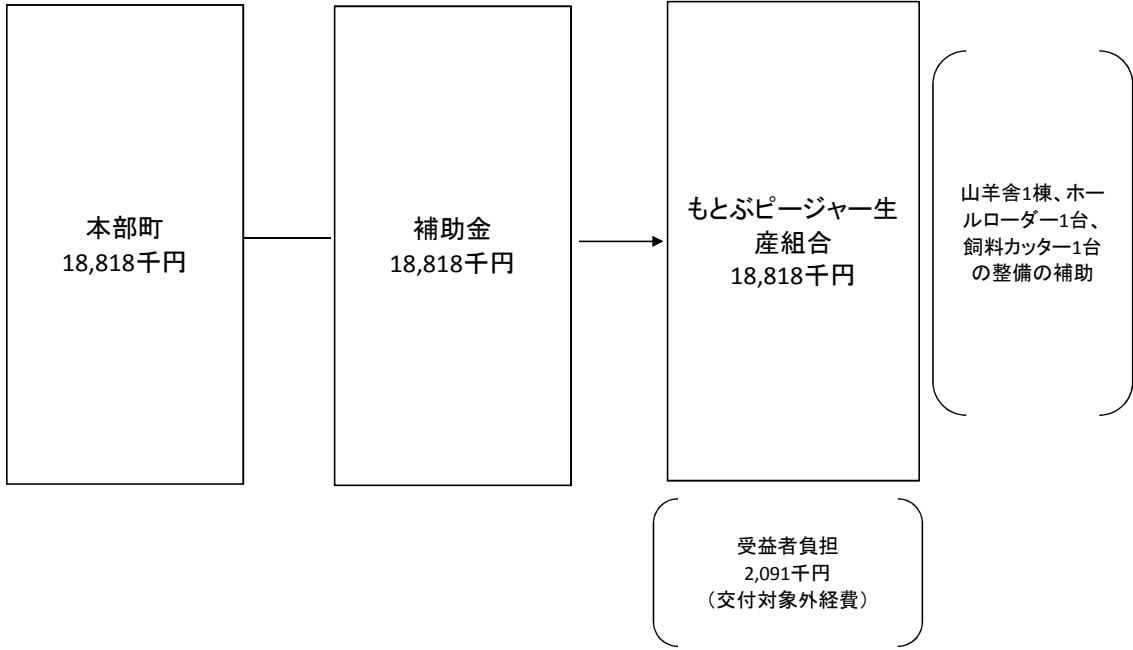
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当該事業により本町内の山羊飼養頭数が増加しているが、子山羊の事故による損失が解消できず目標頭数に及ばなかった。県内各地で山羊のセリが行われ、山羊の認知度と需要が益々高まりつつあるが、需要に対し生産が伴っていないため山羊肉の価格が上昇している。今後は山羊の安定出荷に向け事故率の抑制と肉質向上のための、町内で廃棄される残渣等を活用した飼料給餌の研修等に取り組む必要がある。	事故率が高いため実際分娩頭数より生産頭数が低く、飼養管理技術の講習会を実施し事故率の抑制と多産系統の母体の保留を推奨して生産頭数の増加を図っていく。

今後の取り組み方針

町内で廃棄される芋や果実の残渣を活用した飼料づくりに取り組み生産コストの削減と肉質向上を目指す。町有の人工授精器具を積極的に活用し優良系統の種畜を増やし、飼養衛生管理マニュアルを作成し組合員に配布し子山羊の事故率低減を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
20,909	18,818	15,054	3,764	2,091



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本町内唯一の山羊生産者の団体であり、選定は妥当であると考え。 ○予算規模については入札残に伴う不用額が2,213千円あるが、執行率94%であり適正な規模であった。 ○受益者は自主財源が乏しく、当該事業は公共性、公益性が高い事業であることから、負担割合は妥当であると考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	